

59 有明海 および島原湾

海域の概要

本湾は、九州西部にある内湾であり、湾全体を島原湾、湾奥の浅水域を有明海と称します。有明海は日本一の干潟を持ち、ムツゴロウをはじめとする干潟生物が多く生息しています。



Specification

諸元

湾口幅：4 5 km

面積：1,700 km²

湾内最大水深：164.6 m

湾口最大水深：117 m

閉鎖度指標：1289

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

熊本県宇土郡三角町と天草郡大矢野町を結ぶ天門橋、同町と天草郡松島町を結ぶ大矢野橋、同町中の橋、前島橋、松島橋、本渡市瀬戸大橋、天草郡五和町シラタケ鼻と長崎県南高来郡口之津町瀬詰崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

有明海には多くの河川が流入し、湾奥部に筑後川、矢部川、六角川、塩田川、支湾である諫早湾には本明川、中央東岸には菊池川、白川、緑川が主なものです。これらの河川は背後地から有機物や栄養塩とともに、土砂を運び入れ、広大な干潟の形成に大きな役割を果たしてきました。

湾内のCOD値は、まれに4mg/lを超えることがありますが、概ね0.5~2.5mg/lの範囲で推移しています。最近では富栄養化等により赤潮の発生件数が増加する傾向にあります。また養殖ノリに大きな被害がでるなど、海域環境の変化が指摘されています。

底質は日本でも有数のガタ土と呼ばれる超軟弱地盤でその厚さは15~20mにもおよびます。

自然

有明海は、九州西部に南から深く入り込んだ大きな内湾で、胃袋型に湾曲し、本邦最大といわれる潮差の激しい海域で、湾奥の住ノ江における大潮差は約6mにも及びます。干潮時には筑紫熊本平野や諫早湾の湾奥で広大な干潟が発達し、その面積は大潮時238.1km²にも達します。

生物相は、魚類、エビ、カニ、イカ、タコ、貝類などと豊富ですが、特異な環境下にあるため、有明海でしか見られないエツ、ヤマノカミ、ムツゴロウ、ハゼクチ、アリアケヒメシラウオ、スミノエガキ、シャミセンガイなど特産種が多く生息しています。

また、河口付近の干潮域や干潟はこれら特産種の産卵場であり、仔稚の育成場ともなる重要な海域となっています。



ムツゴロウ

文化歴史

現在の海岸堤防の陸地側には、昔の海岸堤防があります。海岸堤防は、干拓の歴史と密接に関わっており、そのはじまりは元寇襲来直後とされています。江戸時代には大堤防が築造され、その周辺には松の巨木が繁っていたそうです。現在は、地域住民の大切な生活道路として利用されています。

近代では、有明海沿岸では三池炭鉱等の石炭を採掘していました。

産業

有明海では、ノリの養殖が盛んで、生産量は日本一です。また背後には日本有数の穀倉地帯が広がっています。

有明海では、干満の差が日本一大きいため潮流が速いですが、それを逆手にとった漁法が数多くあります。それは、普通は積極的に網を引いて魚介類を捕りますが、有明海では網を固定して潮流に乗ってやってくる魚介類を捕る方法で、アンコウ網、竹羽瀬、手押し網などの特異な漁法が数多く残っています。



手押し網